

平成17年 3月 総務財政委員会 - 03月17日 - 01号

**松井委員**

49ページの3目 農業振興費、19節 負担金補助及び交付金の内訳ですけれども、鳥獣被害の防除事業補助金ですが、これ毎年イノシシが出てきて困るということで、ことしも出していただいて喜んでおられるんですけれども、防護柵の説明が時期が遅くて大変だったというのがあったんで、来年度もまた予算はつけていただいているみたいですが、説明とかいうのはもうちょっと早く言ってほしいという要望がありました。で、恒例化になってやっぱり柵をつけようと思ったんで、早目早目にそういう説明をしていただきたいというのと、それから説明が来た人の方だけで止まってしまっていて、地域に下りてないということもありましたんで、そういうことを詳しくみんなに行きわたって、必要な人が申し込めるようにやっていただきたいということでした。要望です。

**松田総務部長**

環境経済部。

**柏木環境経済部長**

いまの委員の御質問に対して真摯に受け止めて、今後そのようにさせていただきます。

**松井委員**

私ちょっと確認していいですか。

**松井委員**

いいですか。

**松井委員**

できている、努力中、できていないがあって、一番16年度で23%、このできていない、やっぱりしんどいところもあると思うんですよ。一生懸命してもなかなか。そのしんどい面というのは、どういうものなのか。

**吉岡教育長**

たとえば具体的なここで見させていただきますと、バツ印のところを見ていただくとよくわかると思うんですけれども、構造的にというんでしょうか、最初から難しいのと努力不足というのと大きく分かれるかと思えますけれども、たとえば幼稚園、保育所の保育士さん、幼稚園の先生についての男女共同からいきますと、当然これはそういう方が少ないという、

たとえば47番、12ページでございますけれども、こういったことについては特に幼稚園の場合はそういった女性教諭ばかりでございますので、そういった点で問題ありますけれども、それ以外のところは現段階では努力がやはり足りないということ。とりわけ管理職の登用の問題であるとかかなりますと、それぞれに若干の事情がありましてそれぞれ苦労はしてるんですけれども、思うほど伸びないという、そういった状況でございます。

そして今回それに関係しまして、たとえば5ページあたりにございますように、問26のところに表記で説明させていただいてますように、いわゆる市内の職場におけるお茶くみの輪番制のことについて、男女共同で協力してやっていこうということにつきましても、女性職員、男性職員のお茶くみに対する認識が若干違うところがあります。これについてはそのグラフのとおりでございますけれども、やはり下の雇用形態のこともリンクしてまいりまして、やはり臨時、嘱託の方の意識というのが若干悪いようでございます。そういったことから、こういったことで指導の体制のあり方、啓発のあり方等についても考えながら共同参画ができますように努力していきたいと、このように思っております。

### 松井委員

努力不足のところがあるということに対しまして、意識啓発をしていくとしています。やっぱり意識啓発というのはすぐに変わるもんじゃなくて、やっぱり時間もエネルギーも要ると思いますけど、努力していただけると思いますので、次は第2次行動計画を結構楽しみにしております。本当に少しずつでも徐々に前よりも年々パーセント増えてきてますね、とてもうれしく思います。やっぱり努力不足と思わはるところもあるみたいですので、また努力していただいて第2次行動計画も順調に進んでいくように、天理市の女性だけではなくて男性も男女共同参画進めていただけるような施策をしていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

### 松井委員

その他でお伺いします。私は1年目から夏季に女子の職員の事務服貸与の問題、これは男女共同参画社会基本法に反するということでは来てますが、その答弁としては検討するという答弁をいただきました。おととしの総務財政委員会の視察に行かせていただいた上越市と新発田市は制服は初めから男女ともなかった。それから昨年の総務財政委員会で視察に行かせていただいた青森市と函館市は、以前は女子のみあったけれども、いまは財政面や共同参画面からないからないと。それから岡本公室長が言います志木市にもちょっと個人的に仲間と行ったんですけれども、そちらもそうでした。途中まではあったけれども、いまは事務服はないと。

この間、新聞で見たのですが奈良市も4月から事務服貸与を廃止、年間750万円の節約ということで、被服選考検討委員会では夏場は男性がノーネクタイで完全に私服なのに、女性が一律に事務服なのは男女共同参画に反するから問題ということで、コメントは得て

いるんですけれども。女性のみ制服を強要するというのはやっぱり問題かと思ってるんですけれども、反対の立場で考えたときに女子は夏、ブラウス1枚ですか、また、2枚着たりとか、それから冬服でジャケットとベルトとスカートをつける。男性はジャケットだけですよね。いま皆さん着ているのを見ると、セーター着ておられたりしますね、女子は全然私服に自分のお給料から負担はしてないんです。貸与されているから。男性はネクタイ自前、カッター自前、服も自前。夏はもちろん自前。それで逆に差別と思われぬのか、そういうところもあります。

だから制服自体が廃止している自治体が増えてきて、それは財政難というものと男女共同参画という二つの論点で事務服を廃止にしているところがあります。今後、天理市はどういう方向性を持っておられますでしょうか。

### 岡本市長公室長

お答えしたいと思います。今後の制服にかかわる考えはということかということでございましたけれども、御案内のように最近の新聞報道等でも5市ほどが廃止、あるいは見直しをするというような記事も掲載されております。

本市におきましても、いまの男女共同参画プランの改定におきまして、職員の意識調査の中でも制服に係る質問事項があります。それを見させていただきましても、廃止する方がよいというのが女性21%、男性19%、必要であるというのが女性で26%ございます。どちらでもよいというのが約男性も女性も4割ほどおりまして、このどちらでもよいという取り方が大変難しゅうございますけれども、意見が拮抗してるから廃止、あるいは継続でもいいかなと思うんですが、一方、松井委員がおっしゃいましたように男女共同参画の面から見て、女性に夏季の制服を着用させてるのはいかがなものかというも確かなことだと思しますので、職員の間で一応その辺も議論をですね、17年度においては議論する場を設けていったらどうかと、いまこのように考えているところでございます。

### 松井委員

職員の方の意見も尊重しないといけないので、それぞれのいろいろな御意見あると思うので、聞いて議論して結論を出していただきたいと思えます。

そして次にこのパースデーカードをつくられたようなんですが、目的はどのような目的でしょうか。

### 稲田総務部次長

目的といたしましては、少なくともこの世のさまざまな出来事の中で、誕生という出来事は非常に意義深いところでございます。本市におきましても御承知のとおり、今日将来の天理市を担っていただく天理っ子育成推進運動に取り組んでいるところでございます。そのようなことから保育所、幼稚園の園児の皆さん方には、今日まで健やかに育てていた

いただいた御両親等に対し感謝の気持ちを抱いていただきながら、社会の宝である天理っ子があいさつ、小さな親切、きれいなまちづくりをとおり、温かく人に優しい思いやりのある天理っ子に成長されることを願いますとともに、保護者の皆さん方には皆さん方の宝であり、将来の我がまちの宝であるお子さんを大切に育てていただくことをお願いし、また一方期待をいたし、園児の誕生日、市制50周年という記念すべきこの時をとらえ、お誕生日カードに取り組んだところでございます。

### 松井委員

ていねいなよくわかる答弁、どうもありがとうございました。部数と配布先と金額ですね、教えていただけますか。

### 稲田総務部次長

部数につきましては4,000枚等でございます。そして配布先につきましては児童福祉課、学校教育課のお世話取りをいただきながら、保育所関係につきましては公私立保育所、託児所、在宅児等にお配りをいただき、幼稚園につきましては公私立幼稚園に配布をいただいたところでございます。所要金額といたしましては88万円等でございます。以上です。

### 松井委員

ありがとうございました。それでこのことに関して、ちょっとお手紙が来ました、市民の方から。プライベートなこともあるんで抜粋して読みますが、税金がどのように何に使われているのかということが疑問ですということで、いろんな事例を挙げておられます。答えられる範囲で私もいいんですけど、これに関しては私の方に着きましたんでちょっと今回お尋ねしました。

そのところで読みますと、本当に必要なのか疑問に思うきょうこのごろです。保育園に通う子供の誕生日には、市制50周年のタイトルで市長の写真入りバースデー色紙をいただきました。北朝鮮の將軍様じゃあるまいし、なぜ市長の顔写真を入れなければならないのでしょうか。子供の写真が入るようになっているものの、保育士さんがつくってくれた写真入りバースデーカードがあるし、色紙というサイズは保存しにくく、そのままごみとしてしまいました。ちょっとショックですけど。またごみが増えたかなと。

これは助役さん、トップダウンですか、市長からでしょうか。

### 稲田総務部次長

少なくとも先ほども申しましたように、天理っ子育成ということで取り組んでおり、なおかつ幼稚園児にとっての生誕の記念、そして天理市にとっての50周年、そのようなことから改めてこの適切な時期をとらえ、すくすくと育てていただくことを期待、お願いを

申し上げますそれぞれ我々の事務局も含めて考えさせて、今回の運びになったところでございます。

### 松井委員

そしたら事務局もいろいろ協議して、こういうデザイン、こういうスタイルになったということですね。

そしたら、いまのごみの続きになっちゃうと思いますけれども、ごみ減量について12月議会で分別して、啓発していくという答弁いただきました。その12月議会の以降、いままでに市でもいろんなイベントがありました。私もちょっと顔出させていただきましたけれども、使い捨てのもの使われている。これからごみになっちゃうものとか、使い捨てになっちゃうもの。だからごみを減らすということで、方向性で17年度はいくということなんですけれども、分別ばかりでリサイクル貧乏になってる自治体たくさんあります。リサイクルばかりではやっぱりだめなんです。京都議定書が発効されて3Rが国全体として進めていこう、もったいない運動を進めていこうという国の流れがありますけれども、リデュースの排出抑制ですね、だから紙コップを使うのではなくて、お湯飲みを使ってそれは洗ってまた次使えるように、リデュースですね。それから再使用、ごめんなさい、お湯飲みがリユースですね、再使用。リデュースがごみを出さないということですね。極力ごみを出さないようなものを使っていくと、そういうふうな3Rを進めていかなければならないと思うんですけれども、分別計画とともに3Rの推進がとても大切だと思うんですけれども、その辺はどう進めていかれますでしょうか。

### 松下環境政策課長

松井委員の御質問でございますが、先ほど申されましたように、せんだって昨年の10月末にごみの有料化検討委員会より最終報告を受け、今後のごみ処理の方向、取り組みということで、12月1日号の市の広報紙の「町から町へ」で、市としても今後のごみ処理につきましての方向、考え方を一定示させていただきました。

まず17年度に入りまして、ごみの減量化に向けました取り組みとしてまして「町から町へ」へ載せましたが、なかなか住民さんの方が「町から町へ」を見ておられないというような声も聞きましたので、4月に入りまして地元区長連合会及び地元の自治会で報告させていただきました。チラシなり広報等に啓発を含め周知をさせていただく予定をしております。

また資源の再利用という形の中で、ごみの分別の細分化を現在、松井委員さん言われたように8分別から12分別に、来年度の18年度4月の実施を目安に進めていくというふうに考えております。またそれに向けましての、まず地元自治会等のステーションの調査を把握するということから地元自治会の協力をお願いし、新年度から進めていきたいというふうに考えております。

またごみの分別の細分化の実施につきましても、十分市民の皆様事情、内容等を説明し、分別をしなければ減らないんだというような部分の中で必要不可欠と考えており、十分市民の皆様にも情報提供、内容などを今後詳しく説明していき、協力をお願いしてごみ問題を進めてまいりたいというふうに考えております。

最後に天理市におきますごみ問題につきましても、大変な問題となっておりますように察知しております。行政職員もちろん、市民、事業者での3者がそれぞれの責任を持ち、役割を担っていただき、一体となって今後の天理市のごみ問題につきましても取り組む必要があると考えております。

### 松井委員

よくわかる答弁ありがとうございました。3者が協力して責任を持ち、それぞれやっていけないいけないと、本当私もそう思います。業者が一生懸命やって、行政マンの方が本当に汗かいてくたくたになって残業、残業でやって、それでもごみが減り、とても大変なことだと思えます。行政マンだけが頑張る、やっぱりこれは市民に啓発して、市民が本当にごみを減らさんとえらいことになるということを実感してもらえらるまで、しつこくしつこくやっていけないといけないと思うんです。だから、その辺大変だとは思いますが、それでも、頑張るってやっていただきたいと思えます。

あとはちょっと要望だけですけども、天理市この二、三年、市民がショックを受けるような報道がたくさん出てきて、テレビにも流れたりしました。いまほかの市、大阪市です、職員厚遇でいろんな問題起きてますね。それから奈良市は市長の辞職問題ですか、それからこれは25日の新聞ですけど、落札率90%以上、9割を超す大阪府立汚水処理施設委託ということで、外部監査で判明、一般競争、通常の競争で一括を求め。監査人は公正な入札が行われていたとすれば、確率的に難しいと疑問を呈した。抜粋しますと、こういうふうないろんな記事が新聞を開ければ載ってます。天理市は二度と市民がショックを受けて悲しまれるような記事が載らないように、心して職務を進めていただきたいと思えます。よろしくお願ひします。以上です。